

## 日本フラワービジネス大賞2018の受賞者の概要

一般財団法人日本花普及センター、日本花き取引コード普及促進協議会及びジャパンフラワーセレクション実行協議会は、花き業界関係者の幅広い参加協力を得て、平成18年から、①花きの新品種の開発・導入及び活用・普及について多大な貢献や先駆的な役割を担った者、②花きの流通・販売面で新技術の開発・導入や新たな需要開発に多大な貢献や先駆的な役割を担った者、③我が国花き産業の新たな課題について意欲的に取り組んでいる者（民間企業、試験研究機関、各種団体あるいは個人等）を選考・表彰しています。

今年度は、日本花き取引コード管理委員会での事前検討に基づき、平成30年11月20日（火）に日本フラワービジネス大賞選考委員会（参考1参照）を開催して最終選考を行い、日本フラワービジネス大賞2018の受賞者（別紙1参照）を決定しました。

また、授賞式と受賞者による特別講演については、以下のとおり、平成30年12月5日（水）に、ジャパンフラワーセレクションの日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2018の授賞式と併せて実施します。

### （参考1）

#### 日本フラワービジネス大賞選考委員会委員名簿（順不同）

（氏名）	（所属名・役職名等）
委員長 福永哲也	一般社団法人日本花き卸売市場協会 会長 （豊明花き株式会社 代表取締役）
副委員長 安藤敏夫	千葉大学 名誉教授
委員 土井元章	京都大学大学院 教授
委員 飯塚 勲	一般財団法人日本花普及センター 顧問 （元 株式会社サカタのタネ 常務取締役 国内営業本部長）
委員 長岡 求	株式会社フラワーオークションジャパン 取締役
委員 秋田洋子	前一般社団法人JFTD 理事（株式会社はなや 代表取締役）
委員 金澤美浩	全国新品種育成者の会 会長（有限会社矢祭園芸 代表取締役）

### （参考2）

#### 日本フラワービジネス大賞2018等の授賞式及び特別講演会の開催日程

日時：平成30年12月5日（水）13:00～18:00

会場：東京大学弥生講堂 一条ホール（東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内）

参加者：花き業界関係者 約150名

**特別ゲスト： 小里泰弘農林水産副大臣夫人 小里祐子様**  
（受賞者からの花の贈呈と記念写真撮影）

(別紙)

## 日本フラワービジネス大賞2018(第13回)の受賞者一覧

部門	受賞者	受賞内容
育種・生産部門	みなみ信州農業協同組合 花き部会 (JAみなみ信州花き部会)  (部会長 井原吉博)  平成10年 設立  (長野県)	標高400m~1000m以上の標高差を活かし、200品目を越える多彩な草花・花木類の産地形成し、高品質で安定出荷できる産地を形成。 特に、近年、需要が拡大しているダリアに着目し、ダリア専門班が、開花試験圃場による地域に適した品種の選定、母株圃での増殖、鮮度保持剤の試験等を産地として組織的に行うとともに、地域の気象条件を活かして周年栽培体制を確立して、日本一のダリア産地を形成。  (生産額 平成29年度 約5億6千万円 うち ダリア 約1億7千万円)
流通・販売部門	茨城花き流通センター 農業協同組合  (理事長 長谷川重幸)  平成8年 設立  (茨城県)	組合員が共同で花き(鉢物)の流通の合理化を図るため、平成10年度に花きの集荷場施設(茨城花き流通センター)を建設し、県下一元集出荷へと流通の効率化を図り、同時に「生産者⇒茨城花き流通センター⇒市場」を結ぶコンピュータネットワークを構築して、情報取引への対応を図った。 特に、EDIシステムの一環として、組合員の個々の生産出荷計画(6ヶ月以上先まで閲覧可能)を各市場および量販店・ホームセンター等へ提供することにより、「仕入れ・販売計画」に活用してもらい、組合員の計画的な生産・出荷・販売に繋げている。 (組合員 設立当初58名⇒平成30年8月現在98名)
チャレンジ部門	臨海副都心「花と緑」の イベント実行委員会  (委員長 小幡和輝)  平成25年 設立  (東京都)	2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技会場が多く立地する臨海副都心地域において、真夏に満開となるサマーガーデンを造り、その技術を蓄積して本大会開催に向け国内外へ情報発信するため、平成26年度から「臨海副都心花と緑のおもてなしプロジェクト」に取り組み、①夏場の過酷な生育環境に対し、適合した品目・品種を選定するための育成試験を行うトライアルガーデン、②種苗会社等が推奨する品種を活用し、夏花の利用方法を提案・アピールする修景ガーデン等を実施。 また、これまでの成果を普及するため、花き業界や造園業界等に呼びかけて勉強会の開催、マニュアルの作成等にも取り組む。

## (育種・生産部門)

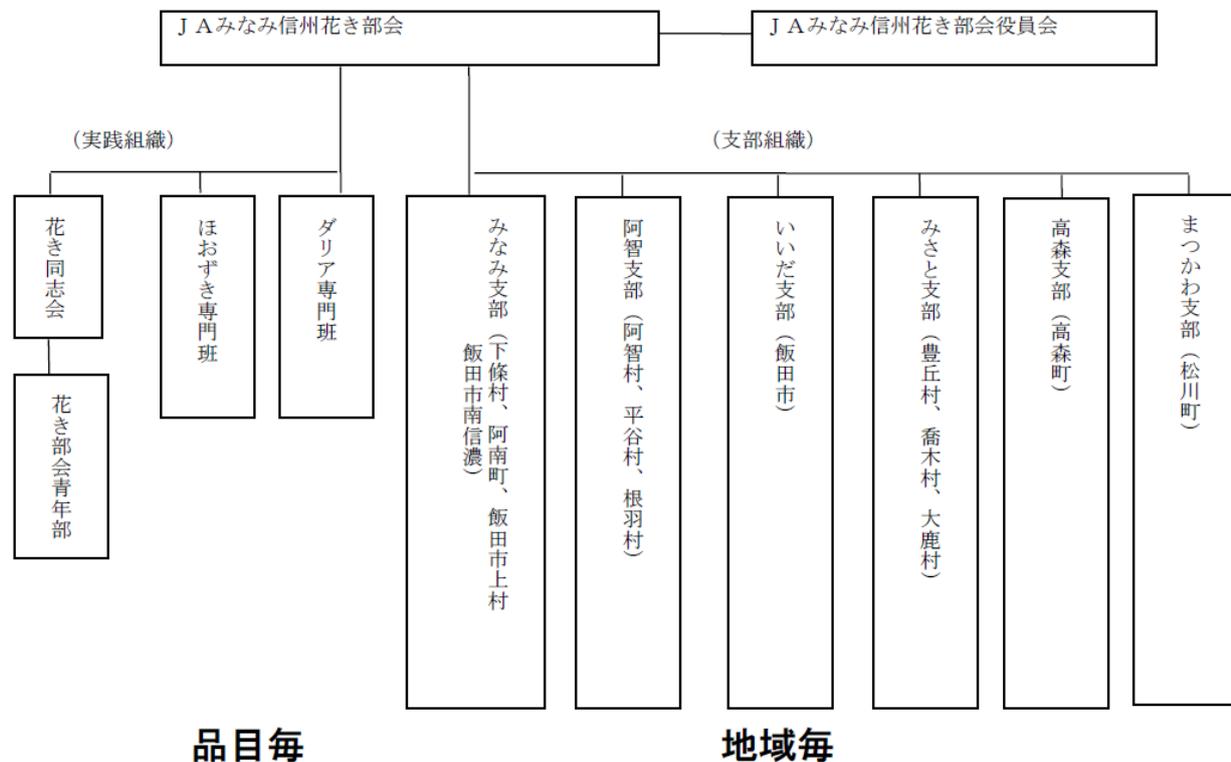
**みなみ信州農業協同組合花き部会（JAみなみ信州花き部会）**

代表： 部会長 井原吉博  
 住所： 長野県飯田市東東 281（みなみ信州農業協同組合営農部農産課）  
 WEB： <https://www.ja-mis.iijan.or.jp/product/flower.php>  
 部会設立： 平成10年  
 部会員数： 花き栽培農家 567戸  
 生産額： 平成29年度 約5億6千万円 うち ダリア 約1億7千万円

## 1 みなみ信州農業協同組合花き部会（JAみなみ信州花き部会）の概要

JAみなみ信州は、冬季の豊富な日照、夏季の冷涼な気象条件から、花の栽培に適した産地です。さらに、生産部会全体で「高品質で安定出荷できる産地」を目指して、全域を統一した広域体制指導・検査を行い、栽培方法・等級・荷造りを統一しています。また、東京・名古屋・大阪へは3～4時間程度で到着でき、どの時期でも新鮮な花を各市場へ出荷できる産地です。

産地の特色は、標高400～1000m以上の高低差を生かし、200品目を超える多彩な草花・花木類を栽培するとともに、ひとつの品目を長い期間出荷することが可能です。周年出荷されているダリアを中心に、施設品目のデルフィニウム・オキシペタルム（ブルースター）、露地切花の姫ひまわり・リヤトリス・ほおずき・ケイトウ類（セロシヤ・アマランサス・久留米ケイトウ）、露地花木の房すぐり・ヒペリカムを代表品目として振興しています。

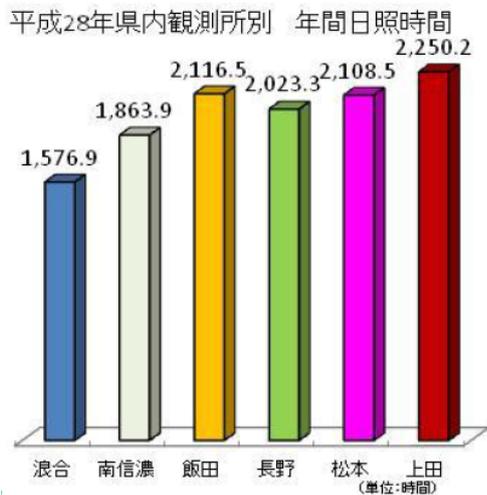


花き部会組織図



## 2 日本一のダリア産地を形成

平成15年頃から、主力品目であるオキシペタラムの連作障害が大きな問題となってきた中で、近年、需要が拡大しているダリアに着目し、平成17年に「黒蝶」の試作を契機に、ダリア専門班が、開花試験圃場による地域に適した品種の選定、母株圃での増殖、鮮度保持剤の試験等を産地として組織的に行うとともに、地域の気象条件を活かして周年栽培体制を確立して、日本一のダリア産地を形成した。

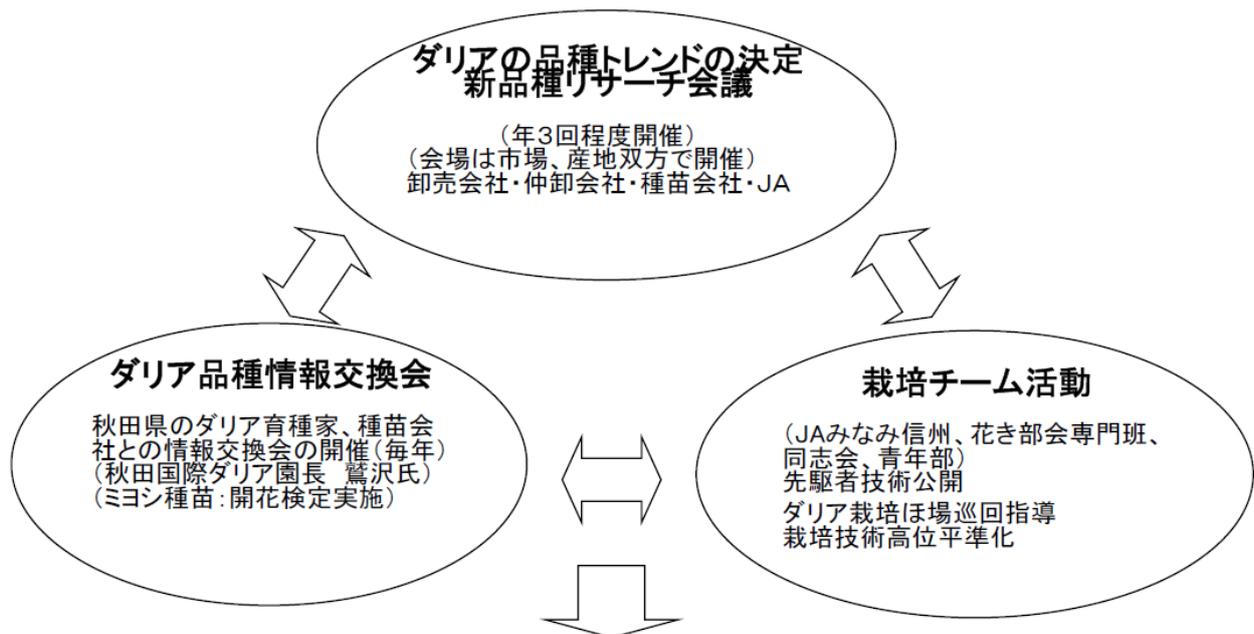


**ダリアは、暑すぎても寒すぎても生育しない  
又、冬の日照時間が大事**

みなみ信州は、涼しい夏と曇天が少なく晴れ間が多い  
冬の気候が栽培に適している。



**日本で唯一周年栽培出来る地域**



こういった活動の中から量、品質ともに国内一のダリアの周年出荷産地に成長  
ブライダル需要品目で、ベスト3と言われる品目にダリアが成長する原動力となった。

**(流通・販売部門)****茨城花き流通センター農業協同組合**

**代表者** : 理事長 長谷川重幸  
**住所** : 茨城県東茨城郡茨城町小幡縁台417番地8  
**設立** : 平成8年 流通センター集出荷施設の竣工 平成10年  
**WEB** : <http://www.hanaport.com/>  
**組合員数** : 設立当初 58名 → 平成30年8月 98名  
**取扱数量** : 平成29年度 69万ケース  
**主要品目** : シクラメン、ポインセチア、アジサイ、苗物、カーネーション、観葉等  
**取引市場数** : 全国79市場

**1 茨城花き流通センター農業協同組合の概要**

平成5年6月の茨城県鉢物生産者協議会（昭和48年設立）総会において、生産者自らによる集出荷を進めてはどうかとの意見が出され、以来3年間にわたり茨城花き流通センター建設準備委員会で先進地研修、市場との話し合い等を重ね、平成8年5月、58名の賛同者をもって設立総会を開催して設立した。更に、平成9年度地域農業基盤確立農業構造改善事業(国庫補助)を活用して流通出荷施設を平成10年3月に建設した。

茨城花き流通センターの特徴は、従来の市場側による庭先集荷から、流通センター農協による集出荷の一元化（農協に委託された集荷業者が集出荷）を図るとともに、台車を使用して集荷作業の効率化を大幅に向上させたことです。また、組合員数は、設立当初の58名から98名に増加して茨城県全域をカバーするとともに、取扱数量も、従来の関東地域の花き市場の割合30%のほかに、中部地域及び関西地域の割合30%、東北地域の割合10%と全国79市場に拡大しています。



**施設規模** : 鉄骨平屋建プラットホーム形式 1棟 2,0925 m<sup>2</sup> (事務所92 m<sup>2</sup>研修室82 m<sup>2</sup>合)

**付帯設備** : 台車 1,150台 (フルサイズ850台・ハーフサイズ300台)

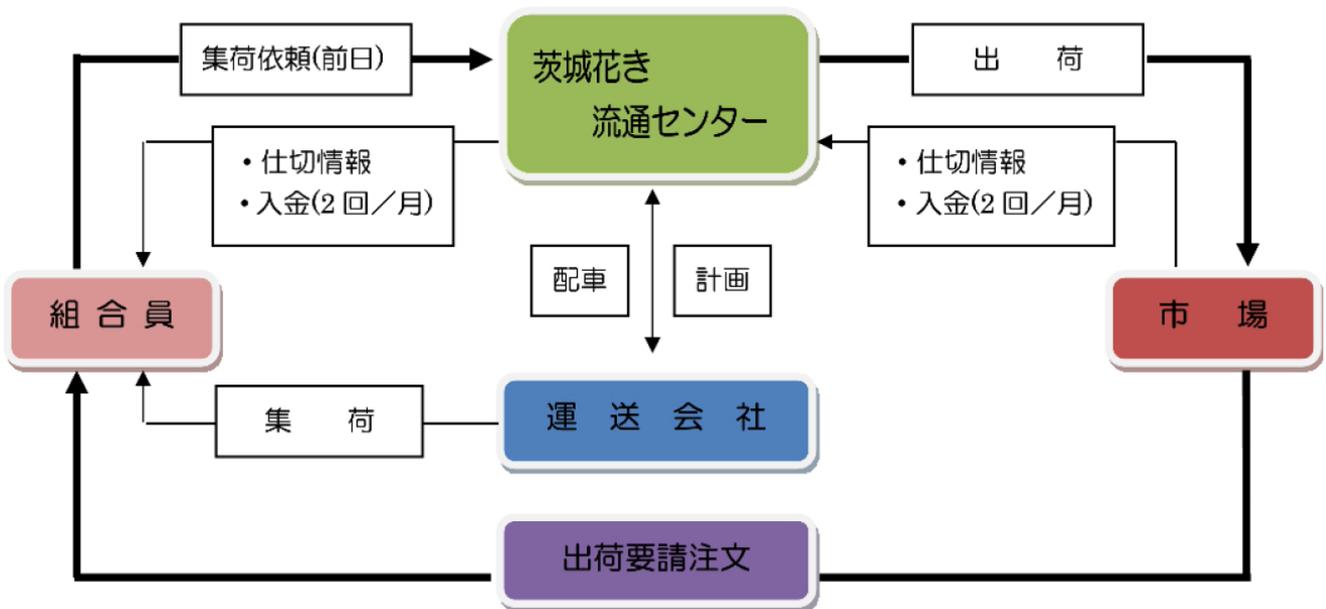
情報機器一式(メインコンピュータ等一式及び組合員端末コンピュータ)

2 EDIシステムによる迅速かつ正確な情報伝達と計画的な生産・出荷・販売の体制の確立

生産者⇒茨城花き流通センター⇒市場」を結ぶコンピュータネットワークを構築して、情報取引への対応を図ります。

特に、近年、EDIシステムの一環として、全国18花き市場と連携するとともに、組合員の個々の生産出荷計画（6ヶ月以上先まで閲覧可能）を各市場および量販店・ホームセンター等へ提供することにより、「仕入れ・販売計画」に活用してもらい、組合員の計画的な生産・出荷・販売に繋がっています。

また、茨城花き流通センターにおける春と秋の見本展示商談会等の販売活動にも強化しています。



2017秋 見本展示 商談会

10月25日 水 13:00~16:00

会場 茨城花き流通センター農業協同組合

〒311-0101 茨城県東茨城郡茨城町小増4-17-8  
TEL 029-291-1187 FAX 029-240-7373  
〒311-0101 茨城県東茨城郡茨城町小増4-17-8

問合せ：茨城花き流通センターまたは市場担当者へお問い合わせ

## (チャレンジ部門)

**臨海副都心「花と緑」のイベント実行委員会**

代表者 : 委員長 小幡和輝

住所 : 東京都江東区青海二丁目4番24号 青海フロンティアビル10階  
(事務局: 東京港埠頭株式会社公園事業室企画開発課内)

WEB : [http://www.tptc.co.jp/park/01\\_04/garden](http://www.tptc.co.jp/park/01_04/garden) (花と緑のおもてなしプロジェクト)

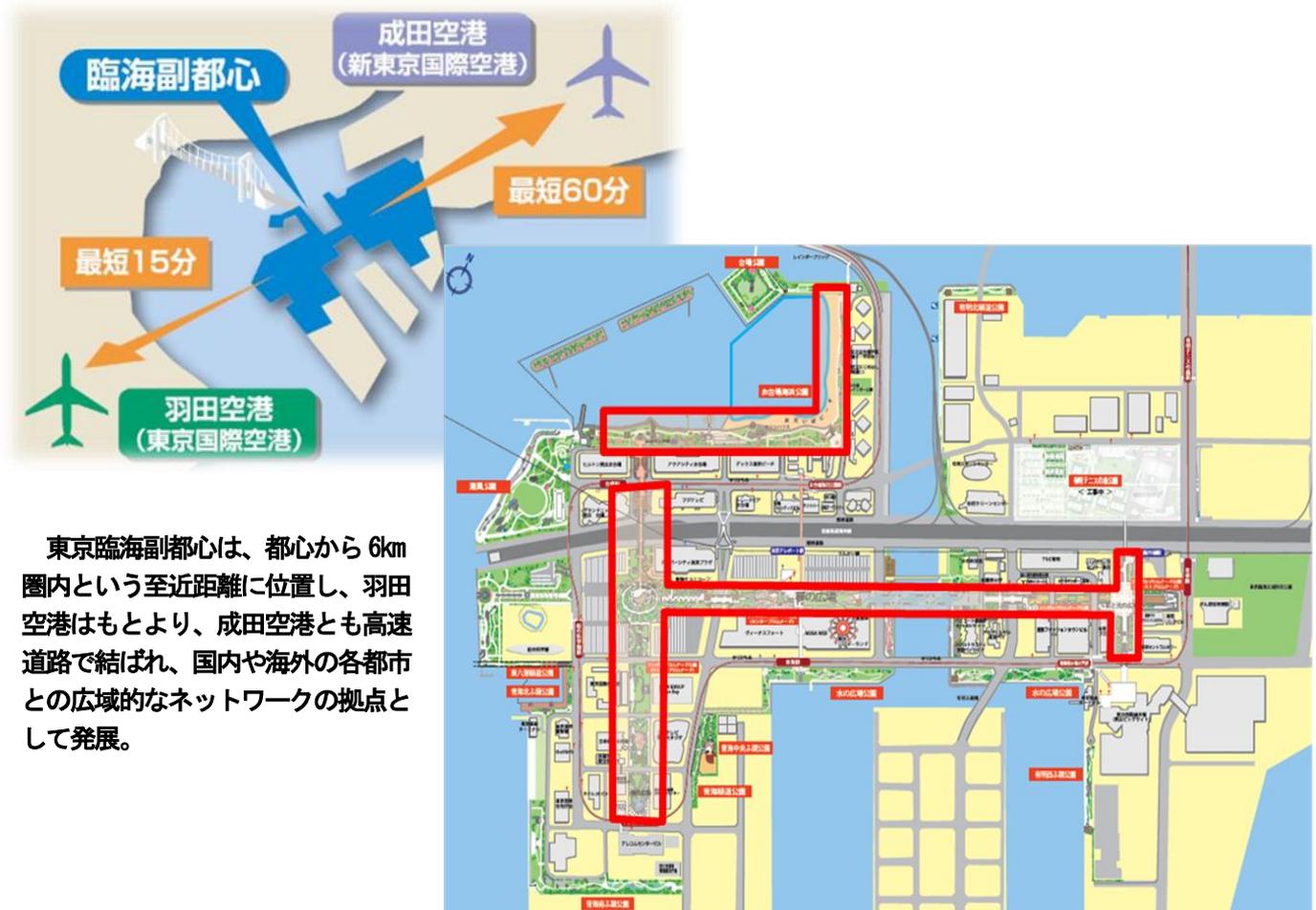
設立 : 平成25年

構成員 : 株式会社東京臨海ホールディングス、株式会社東京レポートセンター、株式会社ゆりかもめ、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、東京港埠頭株式会社、

**1 臨海副都心「花と緑」のイベント実行委員会の概要**

平成25年、花や緑をテーマにしたイベントを開催し、臨海副都心地域の賑わい創出とまちづくりに寄与すること目的に、臨海副都心地域の関係企業・団体により、平成25年に設立された。

具体的な活動としては、2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技会場が多く立地する臨海副都心地域において、真夏に満開となるサマーガーデンを造り、その技術を蓄積して本大会開催に向け国内外へ情報発信するため、平成26年度から「臨海副都心花と緑のおもてなしプロジェクト」に取り組む。



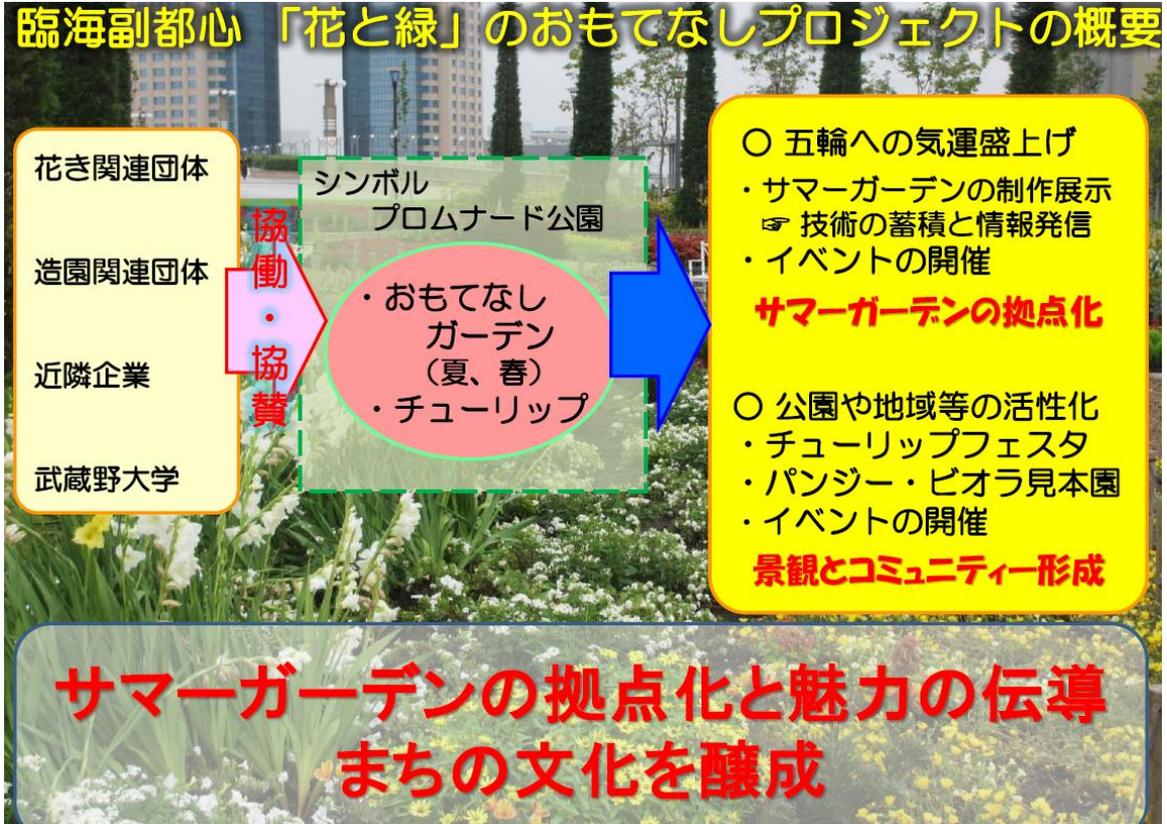
東京臨海副都心は、都心から6km圏内という至近距離に位置し、羽田空港はもとより、成田空港とも高速道路で結ばれ、国内や海外の各都市との広域的なネットワークの拠点として発展。

東京臨海副都心の賑わいを創出する会場公園

## 2 臨海副都心「花と緑」のおもてなしプロジェクトの概要と成果の普及

臨海副都心「花と緑」のおもてなしプロジェクトでは、①夏場の過酷な生育環境に対し、適合した品目・品種を選定するための育成試験を行うトライアルガーデン、②種苗会社等が推奨する品種を活用し、夏花の利用方法等を提案・アピールする修景ガーデン等を実施します。

また、これまでの成果を普及するため、花き業界や造園業界等に呼びかけて勉強会の開催、マニュアルの作成等にも取り組んでいます。



# お台場 おもてなしセレクション概要

夏場の需要拡大を目標に、市販苗を定植し、過酷な生育環境に対して適合した苗を選定するための育成試験(競技会)

## ○ 植物トライアル

### ① 地植え部門(4年間)

2015年～2017年 花物・葉物の区分けなし  
2018年 花物・葉物に分割

### ② コンテナ(プランター)植栽部門(2年間)

2017年～2018年

## ○ 資材トライアル

### ① コンテナ(プランター)部門(2年)

2016年、2018年

### ② 培養土部門(1年間)

2018年



## 2018年 花物部門 出展品種235品種・入賞品種93品種

### ◆ 最優秀賞 農林水産省生産局長賞

植物名 ペゴニア「ビッグテラックス銅葉レッド」 出展 株式会社エッチ・アイ・ジェイ



### ◆ 優秀賞 東京都産業労働局長賞

植物名 ペチュニア「スーパーチュニア  
種苗会社 株式会社ハクサン ビスタピンク」



### ◆ 優秀賞 東京都産業労働局長賞

植物名 トウガラシ「オニキスレッド」  
種苗会社 タキイ種苗株式会社



### ◆ 審査委員特別賞

植物名 センニチコウ「ちなつホワイト」  
種苗会社 株式会社サカタのタネ



### ◆ 審査委員特別賞

植物名 ペチュニア「マドンナの宝石ピンク」  
種苗会社 有限会社村岡オーガニック



# 花と緑のおもてなしプロジェクト 「サマーガーデンの今後について」

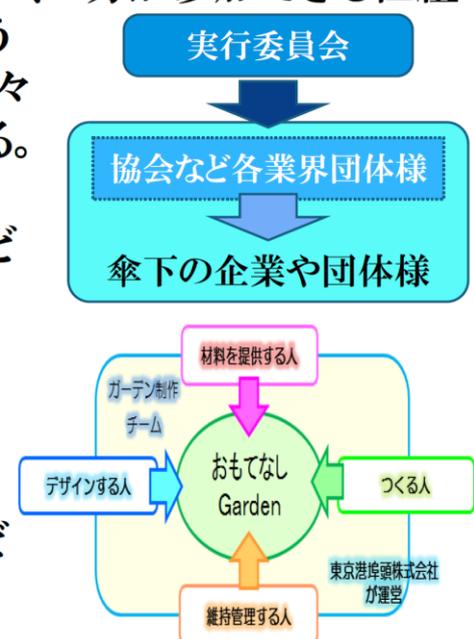
○ 2020年 大会開催での花き活用  
おもてなしセレクション等、結果の周知  
公園における入賞品種等の活用

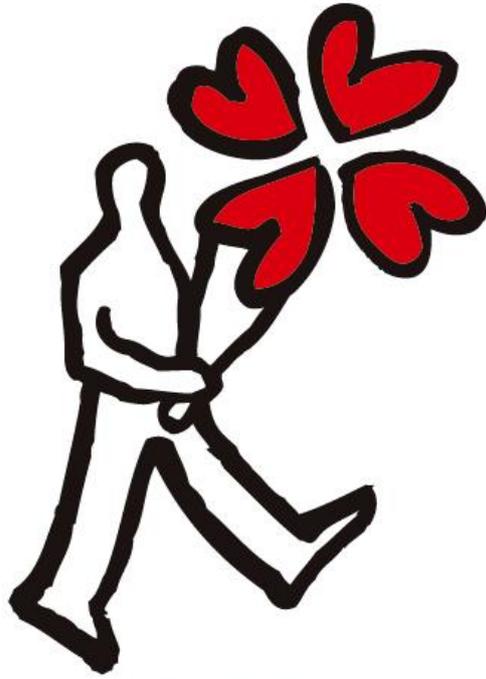
○ サマーガーデンの拠点化と魅力の伝導  
公園を活用し、バイヤーやエンドユーザーが  
夏花の魅力に気軽に触れられる場所づくり  
⇒ 業界ともに公園を使いこなす

## 臨海副都心「花と緑」のおもてなしプロジェクトへの 協賛・協働の仕組みづくり

国内外に発信する「おもてなしガーデン」実現のため、チームを構成することで自らの限界を超えた取り組みへ多くの方が参加できる仕組みとして、個々の得意分野で参加できるように横のつながりを事務局がコーディネート。個々では難しい作品づくりや取り組みを実施する。

- 材料部門: 種苗会社、花き振興協議会など  
⇒ 苗のトライアルや広報宣伝の場として活用
- デザイン部門: ガーデンデザイナーなど  
⇒ 材料に関する知識やデザイン技術の習得
- つくる部門: 造園会社、学校、都民など  
⇒ 材料に関する知識や制作技術の習得
- 維持管理部門: 造園会社、学校、都民など  
⇒ 盛夏の管理に関する知識や技術の習得





いいこと  
あった日、  
花を買う。

---

花っていいよね。キャンペーン

(問い合わせ先)

一般財団法人日本花普及センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

TEL: 03-3664-8739 FAX: 03-3664-8743

Eメール: [jfpc@jfpc.or.jp](mailto:jfpc@jfpc.or.jp) <http://www.jfpc.or.jp>